

外部評価報告書

平成29年度 明正小学校 外部評価報告書
外部評価委員： 谷島 豊、押田 まり子、河野 祥多、西村 和加子、水野 美紀子 報告書作成者： 副校長 柄澤 武志
評価時期 平成30年2月
<p>1 重点目標の評価</p> <p>(1) 重点目標1「豊かな心をはぐくむ教育活動」について</p> <p>本校では、縦割り班等の異年齢集団による活動を多く取り入れ、児童に「明正ファミリー」との意識をもたせ、温かな人間関係を構築し、目標の具現化に努力した。また、あいさつをきちんとすること継続して指導しており、学校外でも元気なあいさつの声が聞こえると地域の一員として成長している姿を感じ、嬉しく思う。</p> <p>人権の花の活動、異学年交流学習、地域清掃などは、豊かな心をはぐくむことに有効な手だてであり、今後も続けてほしい。</p> <p>「いじめをなくそう」と自発的に立ち上がっている学級・グループがあると聞いた。教師が児童の自主性を尊重した指導や、子どもたちの小さな声を丁寧に取り上げたことは高く評価する。</p> <p>(2) 重点目標2「健やかな心と体をはぐくむ教育活動」について</p> <p>マラソン大会、なわとび大会では、子どもたちが一生懸命に取り組んでいる姿を見ることができた。これらの体育的取組は、児童の運動をする楽しさや充実感を高めるために有効であった。食育については、自然の少ない新川の町にあって、野菜を栽培する等の活動をしており、その努力を評価する。</p> <p>(3) 重点目標3「確かな学力を身に付けさせる教育活動」について</p> <p>算数少人数授業や明正タイム等による基礎・基本の定着は効果があったと思われる。学校公開での授業では、基礎・基本の定着に止まらず、子どもたちが様々な意見を発表し、話し合う様子が見られ、思考力、表現力が育っていることを感じた。</p> <p>学校図書館の活用は児童の図書貸し出しの状況から進んでいると思われる。今後はプログラミング、情報リテラシー、情報モラルに関する指導が重要となってくるので、情報教育の充実を望む。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <ul style="list-style-type: none">・児童の悩みや問題を早期に発見し、対応するために、担任以外の教員やスクールカウンセラーに相談できるような体制をさらに整備していく必要がある。・保護者や地域の方の協力を得るため、学校の教育活動をより広く、深く理解してもらうための情報発信を工夫する必要がある。 <p>3 その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none">・児童・保護者が増加する中で、様々な意見が出てくるはずである。学校はいろいろな意見を聞くとともに、分かりやすく伝えることが重要となってくる。・学校は新しくやることを増やすのではなく、今の教育活動に自信をもち、充実させてほしい。